

茨城県市町村別健康指標Ⅰ ～死因別標準化死亡比～

調査の目的と概要

「茨城県市町村別健康指標」は、市町村や保健所(県)などの関係者が保健事業を推進していくにあたっての目安となるよう、健診や死亡などの健康指標を主に市町村別に比較検討を行うとともに、それが一目でわかるようにグラフ化、マップ化を行っている。

1 生活習慣病の死因別死亡比

図1は5年間(1996 - 2000年)の全国を1.0としたときの茨城県の主生活習慣病の男女の死因別標準化死亡比です。全国の死亡と比べて高い疾患は男性で第1位は糖尿病、2位は脳卒中、女性は第1位が脳卒中、第2位が糖尿病です。逆に全国の死亡と比べて低いものは男女とも腎不全、がんです。なお、全死因別で見たときの標準化死亡比は、男性1.02、女性1.04となっております。

2 疾患別内訳

がんの部位別では、全国と比べて男女とも胃がんが高く、逆に肝がん、肺がんが低い。また、心臓病では男女とも急性心筋梗塞が高く、脳卒中では、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血いずれも高いです。

3 市町村別、性別標準化死亡比

がん、脳卒中などの死亡について、5年間(1996 - 2000年)の標準化死亡比を市町村別に比較したマップを作成することにより、全国と比較して多いのか、少ないのか推察できるように配慮した。詳細については健康指標の冊子と裏表紙に添付のCD-Rを参照。

標準化死亡比(SMR)とは、地域間の死亡状況を簡便に示すための1つの指標です。通常の死亡率では市町村別に比較すると、各市町村の年齢構成に差があるため、高齢者の多い町では高く、若年者が多い町では低くなる傾向がある。このような年齢構成の異なる地域間で死亡状況が比較できるように、標準化死亡比を使用し、分析しました。標準化死亡数の計算は、5年間の死亡数の合計を、5年間の期待死亡数(基準である全国の年齢階級別死亡率でもって市町村の各年齢階級に死亡が発生したと仮定して算出した年齢階級別死亡総数)の合計で除して算出した。

資料：茨城県の「保健(福祉)統計年報」、平成8～12年「人口動態統計」及び自治省の「住民基本台帳要覧」

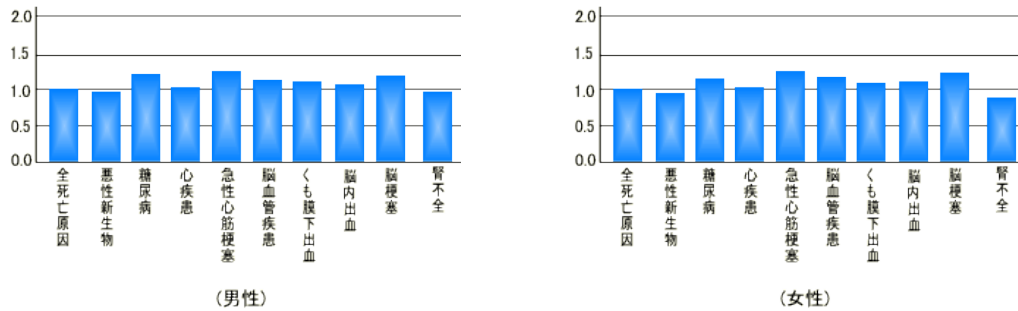
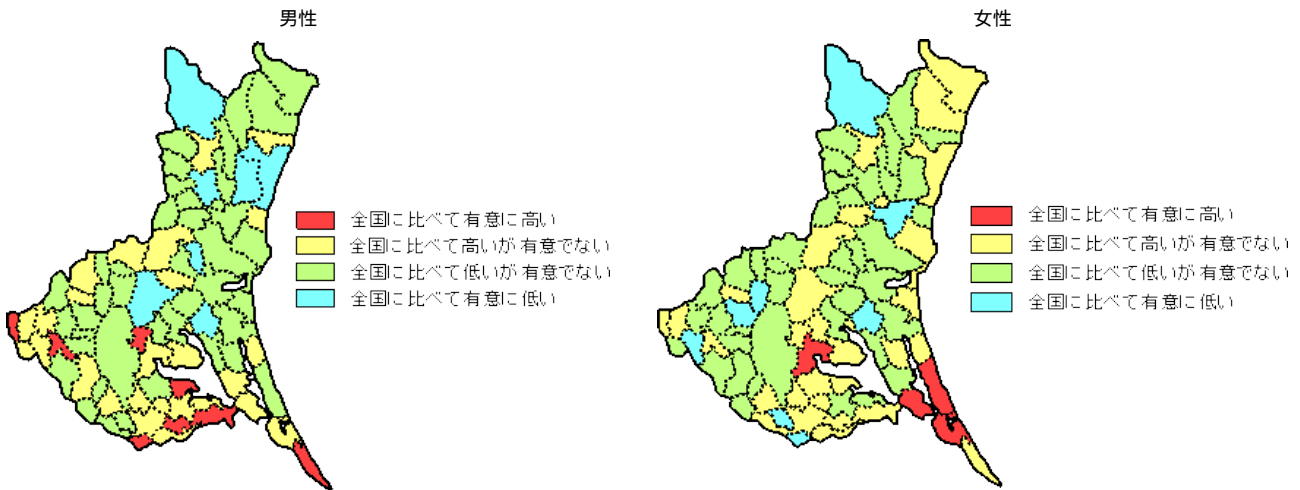
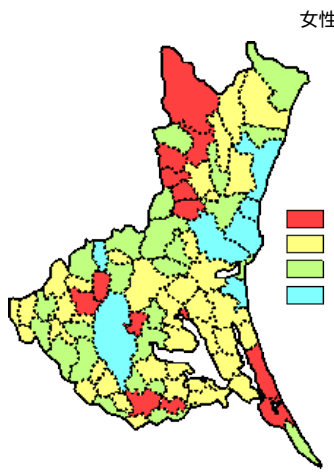
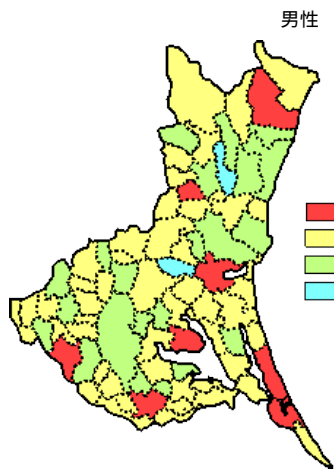


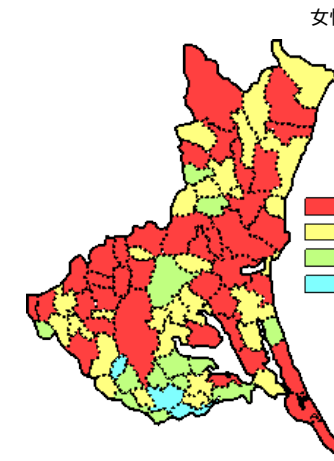
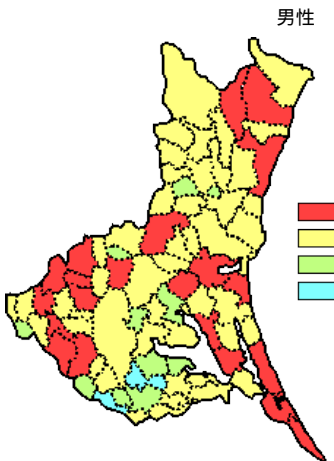
図1 茨城県における生活習慣病の標準化死亡比(1996～2000年)



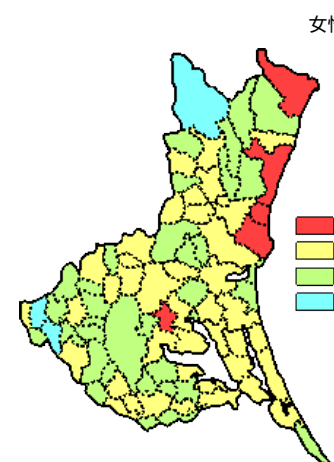
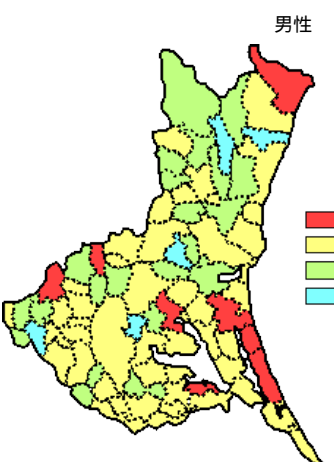
悪性新生物の市町村別標準化死亡比(1996-2000年)



心疾患の市町村別標準化死亡比(1996-2000年)



脳血管疾患の市町村別標準化死亡比(1996-2000年)



糖尿病の市町村別標準化死亡比(1996-2000年)